

は北風を受て、盛夏は涼處に置べし、故に暖國の草木冬月枯槁事は人多知るといふとも、寒地の產物夏月いたむ事は知る人稀なり、

〔草木錦葉集緒卷下〕鉢井石臺の心得

草木ともに植る鉢、石臺とも、其品の格恰より、小ぶりなる鉢へ植るかたよし、鉢大ぶりなれば、雨天の節、其品水を呑過るゆへ、痛なり、

〔草木奇品家雅見上〕永島先生は東都四谷に住して、享保の頃の人也、天資花木を好み奇品を愛す、其始花壇植木とて區を別地に種しを、後器に栽て壺木つぼきと呼、先生始て尾陽瀬戸の陶工に命じて盆を制せしむ、是を縁付えんづけと唱、白鍔黒鍔鉢是なり、其辨利今に於て専用する所なり、此頃より奇品�行て、好人黨を結、相唱和して是を玩、其巨擘として、世人永島先生と推崇、今榮永島連是也、珍品を玩事、實に先生を中興の祖とす、集る盆栽千を以算、自培養灌園つちひまきうわんに他事を廢して、老將至を玄らず、或詰曰、先生彼兼好が徒然草を閲すや、先生笑答曰、資朝卿の雨舍して棄給ひしは、今我徒の玩奇品には非、夫我愛る錦葉銀樹體々として白きは、月下の花にも勝り、また時亥らぬ雪かと訝、班爛帶紅の絳なるは、末秋の紅葉をみす、筆も及ぬ葉形、變砂子、黃斑、黃金色に至迄天生の麗質にして、人作の能する所に非、斯珍品奇種誰是を愛重せざらんやと、問人此答に感伏して、乍此門に入て好人と成、朝比奈、初鹿野の二氏これなり、今好人の盛る、此人々を以嗜矢とす、

〔草木奇品家雅見上〕高室は明和安永の頃、專奇品を弄し人なり、後年王事に違なくして、今は絶て廢せり、此人高年にして豐饒、肌膚光潤、容貌壯年のごとし、或人これを間に、我昔盆栽を深く好み玩弄してもつて興を遣る、今廢すといへども猶日夜忘れず、心の中に想像して慰むかたとす、此ゆゑに自老せぬなりとこたへしと云、

〔農業全書九〕諸樹木栽培法